



④40年ぶりに訪れた太田熊雄家で2代目の太田孝宏さんと談笑するマーティ・グロスさん(左) ⑤DVDに収録予定の映像の一場面。柳宗悦(左から2人目)の生前の姿を映している



窯元記録フィルム 修復しDVDに

いたす活動は、思想家の柳宗悦(1889~1961)らが提唱。美術界で評価されていかなかった陶芸、染色、木工などの職人仕事に光を当てた。柳の収集品を収蔵する日本民芸館(東京)は、今回のDVD製作費用の寄付を募るなど、グロスさんを全面的に支援している。

グロスさんは北部九州の窯元の古い映像も募集している。問い合わせは活動を支援する村上幹次さん(0800-40085)4434。(諏訪部真)



日本の手仕事 世界へ発信

カナダ人映像作家 40年ぶり九州再取材

1970年代に日本文化を紹介する映画を製作し、欧米で話題を呼んだカナダ人の映像作家マーティ・グロスさん(67)が、日本の窯元の記録映像をDVDにまとめる作業を進めている。九州では小石原焼や小鹿田焼の作陶風景も収録する予定。約40年ぶりに九州の窯元を訪れたグロスさんは「既製品があふれる今こそ手仕事の魅力を世界に発信したい」と意気込む。

大学で東洋美術を専攻したグロスさんは日本の伝統文化に興味を持ち、70年に初めて来日した。76年に小石原焼「太田熊雄窯」(福岡県東峰村)と小鹿田焼「坂本茂木窯」(大分県田川市)で、約1カ月かけて陶芸家の暮らしを撮影。ドキュメンタリー映画「Potters at Work」(陶器を創る人々)にまとめ、イタリヤの映画祭などで入賞した。80年には、人形浄瑠璃を題材にした映画「文楽 冥途の飛脚」を製作。欧米各地で上映された。

DVD作りは、再び日本の手仕事に光を当てる試み。自身が以前撮影した映像や、英国の陶芸家バーナード・リーチ(1887~1979)が1930年代に栃木県益子町で撮影した作陶風景など、10本以上の映像を4枚にまとめる。フィルムを修復した上で、2年後の完成を目指す。

初めて九州を訪れたとき、無駄のない陶工の動きに「ものづくりの原点を感じた」というグロスさん。特に、小石原焼には「この山あいの村で、どうして焼き物作りが盛んなのか」と興味を持った。陶工が焼いた器や皿を行商していたことを聞き、焼き物作りは芸術活動ではなく、日々暮らすための生業なのだとは知った。生活するための、ある意味で極限状態のものづくりにから美が生み出されるのか」と驚いたという。

今年5月にDVDの解説などの取材で再訪した九州の窯元では、変わらぬ丁寧な手仕事の一方で、活気のなさも感じた。「昔は今よりたくさんの職人が毎日うるろを回し、窯から上る煙も多かった」。生産量の減少とともに、消費者の関心も薄らがないかと懸念する。

「金を払えば何でも買える時代だからこそ、手仕事の美に目を向けたいといけない」と力を込めるグロスさんに、太田熊雄窯の2代目太田孝宏さん(72)は「海外から注目されるのはありがたい。新たなやる気をもたらしてくれる」と心した。

グロスさんの活動に大きな影響を与えているのは、大正期以降の「民芸運動」だ。無名の職人が手掛けた生活用具に美を見